



三浦 廣巳

一般社団法人東北経済連合会 副会長

エネルギー立県、秋田の復活

私が小学生のころ、秋田市中心部の八橋地区は油田の櫓が林立しており、たまに原油が自噴したニュースも珍しくない時代でした。国内の98%の産油量を誇った八橋油田です。時代と共に産油量も減り、陸上から日本海の海底油田の開発へと移行していきました。やがて採算が合わないということで採掘は下火になり今日に至っております。

しかし、現在再生エネルギーへの転換が叫ばれる中、秋田県の風況が素晴らしいことに注目が集まっています。すでに、日本海沿岸にたくさんの風車が設置され、発電が開始されています。さらに陸上より効率の良い洋上風力の設置が始まりました。

秋田県が秋田・能代両港湾区域内の洋上風力発電事業者を公募し、丸紅(株)が事業者選定され秋田の企業7社を含む13社で2016年に秋田洋上風力発電(株)が設立されました。能代港に20基、秋田港に13基、合わせた発電容量は約140MW、発電形態は着床式洋上風力。風車はデンマーク・ベスタス製、陸上埋設ケーブル、海底ケーブルは共に日本製が使用されています。洗堀防止工事で使用する石は男鹿産、工事に使用する船舶も地元企業を採用しています。

2021年4月までに33基分のモノパイル・トランジションピースが、地耐力強化された秋田港飯島埠頭に搬入されました。5月より秋田港飯島埠頭を拠点に基礎据え付け工事が開始され、SEP 船ザラタン号を使用し、油圧ハンマーによりモノパイルの打設工事が行われ、9月に基礎据え付け工事が完了しました。12月からは風車部材の搬入が、2022年7月からは風車本体の取り付け工事が能代港で始まり、8月いっぱい完了。このあと秋田港の取り付け工事も始まり、9月26日までに完了しました。すべての風車の試運転、法定検査を行って、2022年12月までの運転開始を目指しております。

洋上風力発電に対する地元の経済団体としての期待は大きく、様々な地元企業が関わるができるよう働きかけています。一般海域では、本県沖の4海域が国指定の「促進区域」に指定されており、由利本荘市沖、能代市・三種町・男鹿市沖の2カ所では既に風力発電事業者も決定し、事業開始に向けて進んでおります。

秋田の風景も時を経て、油田の櫓から風車へと変化しました。この変化をチャンスととらえた地元企業の挑戦を期待しております。

秋田には風力のみならず、天然ガス、シェールオイル、太陽光発電、小水力発電、地熱発電等が国内トップクラスの規模で展開しております。

エネルギー立県秋田の復活を地方再生の起爆剤にできるよう、積極的に取り組んでいきたいと思っております。

(秋田県商工会議所連合会 会長・みうら ひろき)